漁業振興

漁場環境整備について

藻場育成に努める／海洋農林課長

浜田（はまだ） 純一（じゅんいち） 議員

問

ここ10年くらい、沿岸漁業の漁場環境は著しく悪化しており、原因は温暖化による海水温の上昇と、生活排水等による河川の汚染、また、山林の荒廃により保水力がなく、大雨が降れば泥水となって海に流れ込み、海底に沈殿して磯を覆い、磯焼けの原因にもなっている。

また、二酸化炭素の排出量が増えて海水に溶け入り、海水の酸性度が高くなり、サンゴ等の被害も大きくなるということである。

このままでは沿岸漁業は成り立たなくなるのではないかと心配しているが、藻場造成の再検討、ヒラメの稚魚の放流量拡大、エビ漁礁の増設について問う。

答

谷口 海洋農林課長

藻場の件は、磯焼けが一番の大きい原因ではないかという事で漁業指導所などと話し合いながら取り組みをしている。

二酸化炭素、及び水質の事は環境問題から入っていかなくてはいけないので、水産試験場とよく協議して進めていきたいと思っている。

ヒラメの放流量については、過去からずっとやっているが、急に倍増といっても予算の都合上出来ない。町の単独事業でやっているので、同じ金額、同じ事業量で継続していくしかない。

漁協を通じての系統出荷が出来ていないので数字の把握ができない。費用対効果を出さなければ補助金がつかない。漁協で対応が出来れば面積も事業量も増えていくと思う。

エビ魚礁の増設については、黒潮町の沿岸域のほとんどが良好な自然岩礁で形成されていることから、根付け漁業の繁殖には適している。

昭和37年から各種の補助事業を導入して、大方地域では伊田、上川口を中心として約1億3千万円、2万4千㎥、佐賀地域では3億3千万円、6万5千㎥の投石によるエビ魚礁として実施してきた。

近年は、定置網漁業や引き網漁業等の不振が影響し、漁業生産が低迷していることから、黒潮町では新しい漁場の整備などに積極的に取り組み、浅海漁業の拡充に努めることが大きな課題となっている。

併せて、漁業者の高齢化が進んでいることから、高齢漁業者にも適している漁業であるイセエビ刺し網業の整備をし、就業の場を確保することが漁業振興にとって重要な施策として考えられるため、今年度は伊田、上川口で実施する。なお、実施地区の選定については、漁協、および漁業者と協議をし、漁協を通じて系統出荷ができている地区を、今年度は選んでいる。

藻場造成が進む上川口港